

## ▶ 9.28全明討論集会に向けて

### 院生の運動の飛躍的深化を!

全明治の学友諸君! 本日(9月28日)全明討論集会が私達の前に提起されている。私達は、今回の集会を今後の闘いの飛躍的深化への画期的集会であると位置づけている。6月以降無期限/リトリートは、その後の私達の運動理論を媒介にした強固な意志一致が多くの学友と計られず、夏期休暇に入ってしまった。この間、私達の運動の負的發展が停止されたことは、院生として自己批判的に総括する必要がある。当初の我々の運動の出発点は、次の如く規定できる。

1. 大学とは—この社会総体の中で、どのような位置にあるのか。
2. 大学における院生の存在の意味は。

この問題をさらに深化していくとき、東大・日大を頂点とした全日学園斗争に決集した学生 労働者を任殺するため、狂犬的機動隊=官憲を導入し、反権力斗争を展開する部分に警棒の雨を浴びせ廻まわりという手段さえ辞さなかつた大学立法とは何か、また、支配者権力が立法化したこの大学措置を拜踊し、具体的に作業を押し進める作業しているのが、私達と日常空間を共にしている教授会のメンバーの幻想にあることを明確にしたとき何をなさねばならぬか、が問われた。

我々、院生が社会の秩序内で、体制インテリゲンチヤへの奉仕者として学部学生の経済的負担の上に立脚して、ぬくぬくと日常生活に首までどっぷりつかっていた自己の姿を直視せねばならなかつた。本日の集会に参加された全明治の方々! 学校権力は、9月24日教職員大会と9月26日評議員会を計ろうとした。この2会合の持

つ意味は、一つには学校権力の自主規制路線(自主改革案)の貫徹の意図があり、一つには、学生と教職員との統一戦線形成の分断工作の意図がある。院生は、強固な意志一致を勝ちとり、学校権力とリわけ政府=支配者階級の反動インテリゲンチヤに跪く、いはば自己の存在を確認できない教職員に対して、この闘いを通じて彼等に剣の先を突きつけていかねばならない。

本日の集会に提出される全学評議会運動はこうした我等の闘いのための新しい団結の内容とそれを保障する形態を有するものとする。合法的大家争闘を繰返して止揚した<sup>全学評</sup>非妥協的、永続的(大学解体運動)を展開しうると考える。この意味において、冒頭に述べた運動の飛躍的深化はこの画期的集会で勝ちとる必然性がある。

スローガン

- 明大斗争勝利!
- 70年安保粉砕!
- 我々の権力(全学評)を  
創出せよ!!

★ 院生共同会議 ★